

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
◆館の重点評価項目は、新津図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：新津図書館

| 区分 | 施策・事業名 | 概要 | 実施結果 | 評価 | | |
|----------------------|------------------------------------|--|---|--|--|--|
| | | | | 自己評価 | 外部評価 | |
| ネットワーキングを活かした図書館 | ◇全館共通評価項目 課題解決のためのレファレンスサービスの充実 | ・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。 | ・レファレンス件数は2,616件(所蔵調査を含む)から11,705件となった。 ・所蔵調査を除いた件数では、34.5%の伸びを見せた。 | ・件数の大幅な増加は所蔵調査の計数条件を確認し直し、計数方法が統一されたことによる。 ・レファレンス件数の増加は地域に図書館での「調査・相談業務」が定着しつつあるためである。 | 3 大変評価する。87.5% 2 ある程度評価する。12.5% 1 評価できない。0% | ・これからより相談しやすい環境を整えてほしい。 ・「読書離れ」が指摘されている中、読書は「考える力」「感じる力」「表す力」を育てるために重要なので、その中で努力していると評価する。今後も更なるサービス提供を期待する。 ・レファレンスサービスが地域に定着しつつあることは評価できる。計数方法を統一することは、数値での評価を行う上で当然のことであり、本来ならば数値目標を設定した段階で評価についても見直しておくべきことである。 ・来館者は気軽に相談できる窓口があることはとても心強いものがあるので、良いと思う。 ・図書館が身近になったと思われる。また、レファレンスカウンターにいつも職員がいてくれることが相談件数の増加につながっている。 ・レファレンス対応が良い。新潟図書館へ行けば何でも相談に乗ってもらえるようになってほしい。 ・計数方法を統一して増加したということはこれまでが過小評価だった可能性がある。 ・市民からの課題解決を多く行っていることは良いことだと思う。 |
| | ◆館の重点評価項目 レファレンス対応の資質向上 | ・レファレンス研修への職員派遣 | レファレンスの研修へ、職位を問わずに派遣することができた。館内でも研修を行うことができた。 | ・郷土資料に関する内部研修を実施することができた。 ・簡易でもレファレンス内容を記録することによって、よく受ける質問については情報を共有することができている。 | 3 大変評価する。62.5% 2 ある程度評価する。37.5% 1 評価できない。0% | ・環境づくりと同じくらい対応の資質は重要と思われるので、引き続き力を入れてほしい。 ・資料や質問に答えられるように研修をするなどの努力をしていることは前向きで良いと思う。 ・研修の実施については評価できる。その研修が現場でどのように活かされているかがポイントとなる。そのあたりについても機会をとらえて検証してほしい。 ・気軽に声をかけられる窓口の雰囲気も大切であるので、研修の成果を期待したい。 ・レファレンス対応の資質向上は図書館のイメージアップにつながり、とても重要なことだと思う。 ・情報共有は利用者にとっても信頼感につながる(ばらばらの答えが返ってくるのは困る)。 ・レファレンス内容の記録数や情報共有量がどのくらいかわからないため評価は難しいが、このような業務を前進させている点は良い。 ・情報を共有するしくみ作りができているのは非常に良いと思う。サービス向上につながる。 |
| 特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館 | ◇全館共通評価項目 地域資料の体系的な収集と活用 | ・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。 | ・郷土資料は積極的に収集を行っている。 ・新潟図書館は郷土資料の利用が多いため、体系的に整理を行う。 | ・未整理の郷土資料、文書について、整理を進めていく。 | 3 大変評価する。25% 2 ある程度評価する。75% 1 評価できない。0% | ・貴重な資料や文書もあると思われるので大切に保管され、利用者が満足するように整理を進めてほしい。 ・郷土資料が多く利用されていることから、より活用しやすくするための資料の整理を進めてもらいたい。郷土資料については、利用の多少にかかわらず収集を進めることそのものの意義が大きいので、今後も継続的に進めてほしい。 ・今後の活動を楽しみに評価する。 ・郷土資料に興味を持ってもらうため、展示といった一般的な活動以外に異分野とのコラボなども考えられる。 ・郷土資料の展示も良いと思う。新潟ならば、その先の展開として町歩きイベントを行い、より図書館に対して興味を持ってもらえるしくみ作りができると良い。 |
| | ◆館の重点評価項目 新潟らしい特色ある資料の提供 | 郷土のデジタル資料のホームページ公開 | ・昨年に引き続き新潟県立図書館の「越後・佐渡デジタルライブラリー」事業に参加し、県立図書館のホームページにも古地図が閲覧できるようにした。 ・新潟市の図書館ホームページからも「新潟図書館デジタル・アーカイブ」をアップし、古地図等を閲覧できるようにした。 | ・引き続き古地図をデジタルアーカイブ化し、ホームページ上で閲覧できる資料の数を増やした。 | 3 大変評価する。50% 2 ある程度評価する。50% 1 評価できない。0% | ・自然災害も多く、関心も高まっているので、昔の地図もとても貴重だと感じる。閲覧したい。 ・資料のデジタル化だけでなく、その資料を他の図書館ホームページから閲覧できるようにするなど、インターネットの有効活用が図られていることが大きく評価できる。 ・郷土の資料は大切な資料なので、それがホームページ上で見られるようになったのは良いことだと思う。図書館に足を運べない時に便利だと思う。 ・ホームページが開けないことが多い。もう少し利用しやすいと嬉しい。 ・デジタルアーカイブ化した古地図等がいかに活用されたか、アクセス数なども評価指標にできたら良い。 ・ホームページで閲覧できることは大変便利だと思う。 |
| 子ども・社会・民融合型図書館 | ◇全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備 | ・ブックスタート事業を継続するとともに、赤ちゃんタイムを拡大し、うちどく(家読)を推進する。 | ・ブックスタートボランティア養成講座を実施した。 | ・6名が新たに登録し、ブックスタートに参加している。 ・健康福祉課とよく協力して事業を実施している。 | 3 大変評価する。50% 2 ある程度評価する。50% 1 評価できない。0% | ・ブックスタートはとても良い事業だと思う。またそれとは別に学校等で読み聞かせをして一般的な「良い絵本」と言われているものが「新潟図書館では書庫に入っているケースが多いように思う。 ・小さい方々対象の読書推進はそれなりに利用もあり、熱意も感じて大変評価するが、健康福祉課との連携を考えるならお年寄りの方々にもお茶の間での利用も推進できると思う。 ・とにかく行政は縦割りになりがちで、横の連携が不十分になることがあるため、今後も他課との必要な連携を図りながら事業を進めてもらいたい。 ・赤ちゃんの頃から本に親しむためには家庭の役割が大きいと思うが、難しい。図書館として少しでも手助けできれば素晴らしいと思う。赤ちゃんから幼児期、児童、学生、大人とどうつなげていくかが大きな課題になると思う。 ・市の事業として行われているブックスタートは将来を見据えた大切な事業だと思う。そのブックスタートを支えるボランティアの要請も必要なことと評価する。 ・新たに6名の登録があったことは評価できる。 ・6名と聞くと少なく感じたが、協議会でよく状況を理解して考えると、頑張ったのではと思う。 ・自分の子どもも昨年、本をいただいた。家で読み聞かせをしてあげることができ、良い事業だと思う。 |
| | ◆館の重点評価項目 学校、保育園、幼稚園等への支援 | 職場体験の受入、施設見学の受入 | ・小学校の施設見学2校を受入した。 ・学童保育の施設見学2カ所を受入した。 ・中学校の職場体験4校を受入した。 ・子どもの読書環境整備のための講演会を行った。 | ・学童保育の施設見学は読書離れが起こる頃の児童に図書館に親しむきっかけを与えることができた。 ・中学校の職場体験では外からでは見えない業務を体験してもらうことにより、図書館への興味を持ってもらうことができた。 ・講演会は盛況であり、子どもの周りにいる大人に子どもの読書に対する意識づけをすることができた。 | 3 大変評価する。75% 2 ある程度評価する。25% 1 評価できない。0% | ・職場体験、施設見学の受け入れを積極的にを行い、読書に、図書館に興味を持ってもらうという意識づけは良いと思う。 ・受入可能な範囲で継続的にやっていくことが大切であり、受入校数が少ないことについては大きな問題ではないと考える。学校と図書館のつながりを考えると、今後も継続して取り組んでもらいたい事業である。 ・忙しい中、施設見学を受け入れるのは大変なことだと思うが、図書館に親しむきっかけとして、良いことだと思う。子どもの読書離れを少しでも止められたらと思う。 ・実践活動を行うことが一番成果が出やすいと思われる結果である。 ・これ以上受入が困難ということで大変尽力したと思う。ただそれでも地域の一部の学校しか受け入れられていないので、学校側に業務等を負担してもらうなど方法を見直す必要がある。 ・自分自身が職場体験を経験した世代だが、大人になった今でも体験したことが記憶に残るので、これからも実施してほしい。 |
| パブリック参画とシナジー型推進する | ◇全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働 | ・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。 | ・区内の大学と連携し、図書館を活用するためのイベントを実施した。 | ・学習室の利用にとどまる大学生に向けて、図書館の活用方法をわかりやすく体験してもらうことができた。 | 3 大変評価する。50% 2 ある程度評価する。37.5% 1 評価できない。12.5% | ・これからも様々な団体、教育機関と連携・協働して行ってほしい。 ・大学生は大学にも図書館があるし、行動範囲も広いと感じるので、それより下の中学・高校生に向けてターゲットを絞って大学生を活用し、イベントを実施すると良い。 ・学習室の利用と図書館の活用は必ずしもリンクするものではない。その点について、ニーズに応じた対応やアピールができれば良いのではないかと。 ・大学生・高校生などが学習室の利用のみにならないようにしていくのは大変だと思うが、少しでも図書館の活用につながってほしい。 ・新しい取り組みで良い結果が得られている。 ・開館日ではない日に実施するなど負担も大きかったと思う。 ・非常に良い活動だと思う。駅前キャンパスと図書館の間を学生が行き来することが増えることに困り、商店街などに賑わいをもたらす一助になるのではないかとと思う。 |
| | ◆館の重点評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働 | ・市民のボランティア活動が継続できるよう、支援や情報提供を行う。 | ・読み聞かせボランティア養成講座を開催。 ・13名が受講し、講座を修了した。 | ・新規グループが結成されるといったことはなかったが、それぞれ、自分の地域での読み聞かせの研修となった。 | 3 大変評価する。12.5% 2 ある程度評価する。87.5% 1 評価できない。0% | ・読み聞かせボランティアを増やそうとする意志は感じつつも色々な習いや学習塾などにも子どもが多い所にPRをしてタイアップできればと感じる。 ・研修を受けた方が、その成果を地域での読み聞かせに活かすことが大切である。その点で、どのような成果が見られたかを検証してほしい。 ・ボランティアの力は大きく必要だと思うので、これからも養成講座は続けて開催してほしい。 ・読み聞かせボランティアの講座をすることで少しでも図書館に興味を抱いてもらうのは素晴らしいことだ。 ・読み聞かせをしてみたいと思ってもその一歩に踏み込めない人をボランティアグループに入れることができる可能性もある。 ・地域での活動も目標は同じ。本好きな子ども、良い本との出会いを作るきっかけに貢献できていると思われる。 ・将来的には読み聞かせボランティアが講師を務めるなど業務負担の軽減ができればと思う。 ・読み聞かせのボランティアもある程度は良いと思うが、それ以外のボランティア活動をやっている民間団体などと何か連携して活動しているのか。 |